

## 高品質で収量が2倍とれる

# ニホンナシ「幸水」の盛土式根圏制御栽培法

ニホンナシ産地の多くでは、主要品種「幸水」の導入から40年以上が経過し、老木化などによる収量・品質の低下が大きな問題となっています。しかし、改植すると成園化するのに約10年を要し、経営上の障害となります。栃木県農業試験場では、早期成園化が可能で、雨よけハウス栽培の場合、植付け後5年目以降、収量が慣行栽培（地植え棚栽培）の2倍とれるニホンナシ「幸水」の盛土式根圏制御栽培法を開発したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 防水用のビニールシートの上に遮根シートを敷き、その上に培地（赤玉土：パーク堆肥＝2：1の混合土）150Lを盛り（縦横70cm、高さ30cm）、苗木を植付けます。
2. 植付けは、自走式防除機による薬剤散布が可能な、株間2m×列間2.5mとし、200本/10a植えの密植とします。仕立て方は2本主枝の一字Y字仕立てとし、地上1mの高さで主枝を2本分岐させ、約130cmの側枝を約50度斜め上方に誘引します（図）。
3. 施肥量は、1樹当たり窒素成分で年間100gとします。緩効性100日タイプの肥料（窒素-りん酸-加里、14-12-14の混合肥料）をかん水を開始する直前（催芽前）に施用します。その他、苦土炭酸カルシウム肥料、ようりん、微量元素を同時に施用します。
4. 水分管理はコンピューターにより自動制御し、1日20回、40分おきに点滴かん水を行います。かん水量は、樹の生育時期毎の必要量に応じて設定します。
5. 雨よけハウスの場合、植付け後5年目以降、着果数を1樹当たり80果にするると高品質果実が得られ、慣行栽培（地植え棚栽培）の2倍以上の収量（平均5.8t/10a）が可能です。

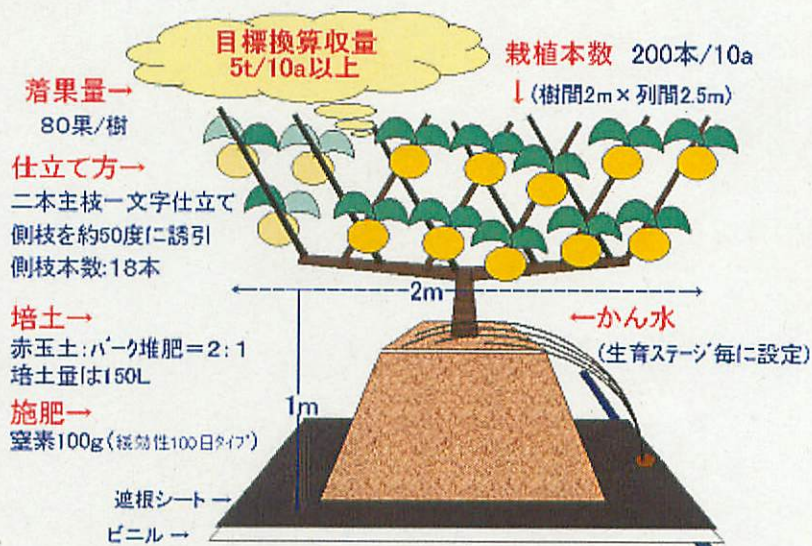


図 ニホンナシ「幸水」の盛土式根圏制御栽培の概要

### ☆ 活用面での留意点

1. 露地、加温ハウスなどの作型でも可能です。
2. 本栽培法は、2003年12月に「果樹類の盛土式根圏制御栽培方法」として特許を出願しているため、栃木県と契約を締結している事業所を通じての導入が前提となります。
3. 詳細については、栃木県農業試験場・園芸技術部・果樹研究室（電話：028-665-7143）にお問い合わせください。  
（農林公庫 技術参与 後藤 明彦）